

名大院 市営地下鉄で実証実験

衛星利用測位システム（GPS）の使えない地下にいても、自分の現在地がすぐ特定できたらいいのに。そんな不満にこたえるシステムの開発に名古屋大学大学院の研究者らが取り組んでいる。無線構内情報通信網（LAN）に着目、その整備が進んだ市営地下鉄を舞台に実証実験を重ねる。お店への移動や列車の乗り継ぎももっと便利になる日を目指す。

カーナビゲーションシステムなどで使われているGPSは地下など、利用できない場所も多い。同大学院工学研究科の河口信夫准教授（通信・ネットワーク工学）らは市営地下鉄のほぼすべての駅で使える無線LANで「代用」できる可能性を探る。無線LANの基地局との間で電波の送受信

携帯使い 地下でも位置特定

が可能な市販の小型携帯端末を使う。端末は自分がどの基地局のそばにいるかを識別できるため、利用者は現在地が分かる。二十六、二十七両日にはその実用可能性を探る初めての試験があり、学生ら計十五人が参加した。端末には駅の構内図や路線図、時刻表、駅周辺の店舗情報などのデータベースも搭載。現在地が特定されれば、その場所に対応した情報がすぐに利用できる。参加者はあらかじめ決められた目的

無線LANをGPSに「代用」

や途中で立ち寄る地点などをめぐった。

実験は十二月十二、十三日にも予定。結果を踏まえてシステムの改善を図る。河口准教授は「無線LANの基地局さえあればどんな場所でも位置特定が可能になる。今回は地下鉄での実験だが、普及すれば日常のさまざまな場所で利用できる技術だ」と話している。

（北村剛史）

地下鉄駅構内で行われた、携帯端末を使った無線LANの位置測定実験
―千種区の市営地下鉄名古屋駅で



行催事

り。協育NPO母里ん子
(もりんこ) 電(76

発表会 12月1日後1・30

物を近い状態を長く保つ